月刊 まち・コミ 2010年10・11月号

● インフォメーション ●http://park15.wakwak.com/~m-comi/

1月8日午前1時～ NHKラジオ第1ラジオ深夜便「古民家、海を渡る」田中保三顧問が登場。

● 今月の注目記事 ● P1 ～P3 建築家　武田則明先生と御蔵

建築家 武田則明先生と御蔵

「神戸市民をびっくりさせた人」に贈られるロドニー賞。第20回目となる今年の受賞者は、建築家の武田則明先生でした。「港まち神戸を愛する会」の会長として、芦屋市の旧山邑邸や旧兵庫県庁舎（現県公館）など神戸の近代建築の保存に尽力し、産業遺産の調査にも取り組まれていることが、今回の受賞につながったそうです。

武田先生は御蔵では、現在まち・コミュニケーション御蔵事務局が入っている共同再建住宅「みくら5（ファイブ）」や、御蔵北公園にある慰霊碑の設計をしてくださいました。これらを初めてご覧になられる方々は、その斬新なアイデアに、みなさんまさに「びっくり」されます。

今回の月刊まち・コミでは、武田先生の受賞を祝って、武田先生の御蔵での足跡をたどります。

ロドニー賞とは・・・

1897年に創業し、神戸元町で和洋菓子の製造販売をしている株式会社神戸風月堂が、神戸の発展・活性化を企業の立場から応援しようと、1988年から毎年1名（組）、神戸市民をびっくりさせた人に贈ってきた賞。名前の由来は、1868年の神戸開港の際に祝砲を放ち、神戸市民をビックリさせたイギリス艦隊旗艦「ロドニー号」にちなんでいる。これまでの受賞者には、オリックスの鈴木イチロー選手（1996年受賞当時）、作家の陳舜臣氏らがいる。
（神戸風月堂の「風」は、正式には「几」の中に「百」です）

▲2010年11月23日、神戸風月堂ホールで行われた授賞式にて。代表取締役会長の下村俊子氏から記念品を受け取る武田先生。（写真提供：武田先生）

●建築家としての責任

建築保存活動は、県や市などに保存してほしいと申し入れをすることが多いため、公を敵に回すことが多い。建築家として仕事を減らすことにもつながりかねないが、それでも保存運動に真っ向から取り組んできた。「町にも建物にも、個性というものが必要なんですよ」と武田先生。「近代神戸の歴史は、明治元年に始まったところ。たった130年という短い歴史を壊してはいけません。ファッションセンスがあり、食べ物もお酒もおいしく、通勤に便利で子どもの教育環境もいい、神戸は本当にいい町ですよ。人間の基本である衣・食・住が誇れる町なんです。けれども、建物のスクラップアンドビルドを繰り返していたのでは、この魅力あふれる神戸がどこにでもある町になってしまいます」と危機感を募らせる。

一方、御蔵での共同再建住宅「みくら５」や慰霊碑は、コンクリート打ちっ放しが美しい。武田先生がコンクリート打ちっ放しに関わったのは、設計事務所の社員として札幌にいた頃。「打ちっ放しは構造が見えるので、節ができたり傷を付けたりできず、造る時にものすごく気をつかい、必死になります。そのことが、建物の骨組みを頑丈に作ることにつながるのです。しんどいですが美しく、日本の木造建築の柱や張りが見えているのと同じです」。

▲共同再建住宅「みくら５」

●共同再建住宅「みくら５」

武田先生と御蔵地区とのお付き合いが始まったのは「みくら５」の設計から。震災でご縁ができた、真野地区のまちづくりプランナーである宮西悠司先生の紹介で、すでに計画が持ち上がっていた共同再建住宅の設計を依頼することになった。

この住宅の権利者は10名で、飛び換地により御蔵通５丁目の北側に土地を集めたが、それぞれが持つ土地の面積や家族構成などが違うため、希望する住宅のプランが全て異なった。「マンションといえども、個別に聞き取りや協議をして設計するので、戸建てを10軒建てるのと同じです」と武田先生。床面積が２倍以上の差がある家を積み重ねるため、相当苦心されたそうだ。

トイレ、洗面、浴室、キッチン等の水回りは各階同じ位置に作ることで、配管を短くしてコストを削減し、水漏れなどのトラブルが少なくするよう配慮。階段やエレベータ位置が決まることで玄関の位置が決まるが、それ以外は各権利者が自由に要望を語った。

各人の負担を少なくするためにも、共用部分の階段で使う面積を極力減らそうと、奇数階同士、偶数階同士にしか行くことができないというおもしろい設計。また、この規模のマンションにはめずらしい集会室「結の間」を設けた。近所の人たちの寄り合いや、住民の親戚らが泊まりに来る時などに利用されている。

▲慰霊碑

「建築はデザインですから、どこかで驚きや感動を与えたいという気持ちはあります。ただ、みくら５の場合は何より、安全であるということに対して絶対の自信を持っています。みくら５は、阪神・淡路大震災レベルの地震にも耐えられますし、100年は十分に持つ住宅です。こんな頑丈なマンションは、他にないですよ」と強調する。強度の高いコンクリートを使っただけでなく、工事の際に鉄筋とコンクリートの密着率を高めることにこだわるなど、施工管理を徹底した。震災で住まいを失った方々の「終の棲家」を造るという責任に対し、建築家として出来る限りのことをしたという。

施工段階に入ってからは、自分の家の部分のコンクリート打設の際には必ず立ち会ってもらい、竹で突いたり木槌で型枠を叩くなどの作業に参加してもらった。権利者に工事への参加を呼びかけたのは、武田先生の長年の建築家業の中でも初めてだったそうだ。「家を大切にし、住み続けてほしいという思いからのアイデアでした。自分の家ですから、みなさん必死になって作業をされていました。その感覚が後々に残れば」と当時を振り返る。

みくら５は、2000年１月に竣工式を迎えた。工事の終盤に、共同再建住宅建設に関係した人たちの手形を取り、みくら５の北側入口にはめ込んだ。「みんなで造ったという温もりと、自分が参加した跡を、目で見える形で残しました。住民の子どもさんの手形は、成長の記録にもなっていると思います」。震災を経験したという地域の歴史をしっかりと受け止めてくださる武田先生との出会いが、共同再建住宅の完成へと導いた。

2011年１月で、建物が完成して丸11年。残念ながら１世帯が入れ替わったが、毎月１回、全世帯が参加しての掃除などを通して、住民同士の交流が続いている。

参考図書：『「共働」共同建替事業の記録～「みくら５」の完成まで～』（1部1,000円でまち・コミ御蔵事務局にて頒布・郵送）

●慰霊碑「鎮魂」

御蔵北公園の北西角にある慰霊碑は、阪神・淡路大震災によりこの地域で亡くなった128名の方々を祀っている。「正立方体であることに、深い意味があるんです」と武田先生。三方の比率が等しいこの形で、揺るぎない心を表現しているという。モニュメントの中央部分には、周辺の地図が刻み込まれていて、モニュメントに上がってのぞき込み、位置を合わせると、亡くなった方々がおられた場所に光が当たる仕組みになっている。

この慰霊碑の工事にも、住民の方々やボランティアが、コンクリートを流し込み、型枠を叩いた。「自分たちの町は自分たちの手で」を合言葉にまちづくりを進めてきた御蔵地区の、シンボルの一つといえるだろう。

初めてまち・コミに来られた方々には必ず慰霊碑へご案内し、光の仕組みをご覧いただき、この地区の震災の歴史を伝える。また時々、このモニュメントに座って休んでいる人がいる。今を生きる人たちが、揺るぎない心で包み込まれている、そんな感覚になる慰霊碑だ。

武田先生は御蔵での仕事の中で「下町のよさ、人間味あふれるところをどう生かし、住みやすい場所にするか、設計や施工の中でその仕組み作りはしてきました。子どもや孫に、それらの経験を伝えてほしい」と語る。

武田先生はまち・コミュニケーションの支援委員を引き受けてくださり、また、古民家移築など、建築に関わるプロジェクトでも数々のアドバイスをいただいています。正しいと思えば信念を持って、全力で向かって行かれる武田先生から、まち・コミに関わる若者達が、多くを教えていただいています。今後ともよろしくおねがいいたします。

みくらエッセイ

「被災地神戸で」

岡田 唯菜

私は、小学校6年生のときに、修学旅行で愛媛県から神戸にやってきて、御蔵地区の震災体験学習に参加させていただきました。まち歩きをしたり、炊き出し体験で豚汁をつくったりしました。当時、私たちは総合的な学習の時間に「地震」について勉強していました。テーマごとに何チームかに分かれて勉強しました。実際に神戸を訪れ、このような体験ができたことは大変ためになりました。最終的に1年間勉強してきた成果として、1冊の冊子にまとめました。

今は神戸大学の学生で、この度縁あって、再び震災体験学習に参加させていただくことができました。質問時間に、私に質問してくれた生徒さんがいました。語り部さんのように震災の体験を伝えることはできないけれど、7年前の体験やサークルでの活動(後述)を通して、何か私だから伝えられることがあるのではないか…うまく話すことはできなかったけれど、それが伝わっていたらうれしいです。7年前に震災体験学習に参加したときは話を聞く側だったのに、今回は話をする側でもあった、というのがとても新鮮だったし、いい経験になりました。ボランティアという立場でしたが、まち歩きでは、生徒さんに交じっていっしょにお話を聞かせていただきました。忘れてしまっていることはやっぱり多かったけれど、うろ覚えだけど覚えていることもあって、なんとなく懐かしい気持ちになりました。また、改めて勉強になりました。生徒さんを見ていると7年前の自分たちを思い出すようでした。この日参加された生徒さんも、震災体験学習のことをずっと忘れないでいてほしいです。

現在は、神戸大学に入学し、総合ボランティアセンターというサークルに所属しています。総合ボランティアセンターには、高齢者福祉 児童福祉 障がい者福祉 まちづくりなどの分野に分類される9つのセクションがあります。その中のN.A.C.(灘地域活動センター)というセクションで、毎週土曜日に灘区にある2か所の復興住宅でお茶会をさせてもらっています。阪神淡路大震災が起こり、被災した多くの人々は避難所へうつり、神大生は避難所での支援活動を始めました。やがて家を失ってしまった人々は仮設住宅、そして復興住宅に住むことになりました。しかし入居者の多くは単身高齢者であり、慣れない環境での生活に「隣に住んでいるのはどんな人なんだろう」と不安になったり、新しい人間関係が築けなかったりするのではないかということが考えられました。そこで、新たな関係づくりの助けになれば、とお茶会を始めたのがきっかけです。「お茶会開いてくれてありがとう」「毎週楽しみにしているよ」などあたたかい言葉をかけてくださる方もいらっしゃって、私たち学生も含め、お茶会はいつもたくさんの笑顔であふれています。

今回、震災体験学習に参加させていただきありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

○プロフィール○　おかだゆいな　1992年生まれ。愛媛県出身。2010年神戸大学入学。

まち・コミnews

窪島誠一郎先生、水上蕗子先生が 台日交流古民家移築事業の古民家　一滴水紀念館訪問

11月7日、台湾松山空港に、の窪島誠一郎先生（故水上勉先生のご子息）、水上蕗子先生（同、長女）が、着かれました。その足で、明日帰国される陳舜臣先生と歓談を持たせていただきました。

11月8日は、一滴水紀念館で、水上蕗子先生に、この民家の初代大工である祖父覚治先生の思い出と共に、この民家の特徴を少しですがお話していただきました。窪島誠一郎先生が、「無言館ものがたり」と題して、台湾のお年寄りを中心に、約50名の方へ講演してくださいました。半数は、通訳なしの日本語でご理解されていました。窪島先生のお話から、戦没画学生の画を探す中での遺族とのやりとり、そして彼らが亡くなる直前まで家族を思う気持ちを想像でき、大半の方は、涙が止まらなくなりました。講演終了後、自分達の経験も話したくなったのか、窪島先生のところまでお話されに来る方もいらっしゃいました。（2月号に続く）

▲講演の様子。左から、邱明民さん、窪島誠一郎さん、水上蕗子さん、田中保三

大地のつぶやき

～出石の「農」に思う～

今年も十月二十三、二十四日に黒大豆の枝豆の収穫を終え、あとは十一月中旬に玉葱の苗植えを残すばかりになった。今夏は天候不順のため野菜の出来が悪く、我々の作っていた黒大豆も根に近い方は花も咲き実も成ったが、根から遠い上の方はあまり花も咲かず、よって実りも少なかった。収穫の結果はそれでも結構実入りは良かったし、味も例年に比べ遜色なかった。難を言えば三ツ玉が少なく1ツ玉が多かった様に思う。

まち・コミの農園作業も六年になり、メンバーの中には「既に当初の目的は達しているのではないか。そろそろ引き時じゃないか」との意見も出ている。確かに当初鳥居地区の区長であり、我らが有機農業の師匠でもある廣井昌利さんから「水害被災地住民を勇気づける役割として神戸長田の人たちによる農園作業を見せることによって担って欲しい」と頼まれた。堤防決壊により田畑に墓石や土砂、洗濯機や冷蔵庫等々が散見され、アスファルト道路の5m×5m×5　cmの表層や路盤材の砕石も洗堀され流入していて、やる気の失せるのも道理だったが、翌年稲穂も見ることが出来た。

一方我々も六年の間、土と触れ合い、野菜を育てることは水や空気や温度や日光によって微妙に出来の違いを学び、工業化社会には見られぬ自然の恵みを感じとれた。一喜一憂しながら収穫の喜びを待つ。ほんとに収穫時は「やった――！」という達成感を伴うものだ。その上、今度は収穫物を食する楽しみ。「今年の出来はどうだ？　そして味は？」「何度も汗をかいて、協力し合って努力し、忍耐を重ねた結果は？」「生命を育て、生命をいただく」。当たり前のことだが「いただく」方に力点が置かれ「育てる」ことを忘れている。自然の中に入り、土や生き物に触れ、においをかいで感じる。人は生きるために食事をする。命あるものを料理して食べる。育てる接点を離したくない気持ちが強くなっている今日この頃だ。

株式会社兵庫商会　田中保三

まち･コミ活動報告　9/1～10/31

8/25～9/7 明石高専
　インターンシップ受入
9/2　御菅西地区住宅再建調査
9/2　和洋女子大学家政学部
　生活環境学科4年研修受入
9/4　WEB会議（第6回）
9/7　シアトルワシントン大学
　研修受入
9/8　区民まちづくり会議出席
9/12　大里綜合管理株式会社訪問
9/13～14　運営委員会夏合宿
9/15　延藤安弘先生ご一行来訪
9/23　岐阜市立加納中学校
　震災体験学習受入
9/24～27　斉藤賢次棟梁木造
　建築講演と講義（in 台湾淡水）
9/28　神戸市新人研修受入
9/30　月刊まち・コ印刷発送
10/3　講演とシンポジウム
　「震災への備えを考える」
　（足立区、田中）
10/4　区民まちづくり会議出席
10/5　栃木県立小山城南高校
　震災体験学習受入
10/11 WEBまち・コミ打合せ
10/12 遠藤勝裕さんを囲む会
10/15 日本災害復興学会神戸大会
　レクチャーと町歩き
10/16 阪神大震災を
　記録しつづける会準備会
10/17 観音寺お参りと
　出石市民農園収穫祭参加
10/23・24　黒大豆の枝豆収穫
10/25～29 雲雀丘中学校
　トライやるウィーク受入
10/30 講演「農に学ぶ」
　（丸亀市川西地区、田中）
10/31 区民まちづくり会議出席

ご支援、ありがとうございます。　9/1～10/10

●賛助会員(新規･継続)●
キリンビバレッジ株式会社(兵庫県)　直田春夫(大阪府)　武田則明(兵庫県)　岩崎正朔(香川県)
日本精機株式会社(大阪府)　樽本憲昭(兵庫県)　浅野智子(京都府)　熊坂ひろ子(東京都)
遠藤勝裕(埼玉県)　寺門征男(千葉県)　大牟田智佐子(大阪府)　出口俊一(兵庫県)　片瀬道昭(兵庫県)
岡本誠(兵庫県)　岸田圭位子(兵庫県)　大東石油株式会社(兵庫県)　唐澤和義(東京都)
照屋さつ子(兵庫県)　川村武也(兵庫県)
●寄付●　石井恒利(東京都)
●協力●社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都)　株式会社兵庫商会(兵庫県)　【順不同･敬称略】

新規賛助会員募集＆更新のお願い

まち･コミでは、さらに活発に活動を行うため、賛助会員を募集し、金銭面でのご支援をいただいています。会費は、事業推進のために活用させていただきます。賛助会員のみなさまには、会員特典をご用意しておりますので、ぜひ賛助会員への登録をお願いいたします。

また、賛助会員は１年更新とさせていただいています。現在賛助会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。(期限は、「月刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名の下に記載していますので、ご確認ください。)

年会費
個人・法人　年間５０００円
学生　　年間３０００円
郵便振替口座番号
００９５０－３－４２７８８
口座名称
「まち・コミュニケーション事務局」

会員特典

◆本誌「月刊まち・コミ」の送付。
◆まち・コミュニケーションに関する、Ｅメールでの情報送付、WEBの特別ページの参照

よろしくおねがいいたします。

■編集後記　日々の活動報告は、「まち・コミブログ」で行っています。コメントもどしどしお書き込みくださいませ。
アドレスhttp://machicomi.blog42.fc2.com/(戸)

2010年11月30日発行
編集／発行　まち･コミュニケーション
定価　１００円
御蔵事務所　〒653-0014
神戸市長田区御蔵通5-5
TEL　078-578-1100／FAX　078-576-7961
東京事務所　〒162-0052
東京都新宿区戸山1-24-1
早稲田大学文学部浦野研究室内
神奈川事務所　〒214-8580
神奈川県川崎市多摩区東三田２丁目1-1
専修大学文学部大矢根研究室内
e-mail　m-comi@bj.wakwak.com
URL　http://park15.wakwak.com/~m-comi/